

アジアの伝統芸能 第四回

白蛇伝の世界(二)

中国伝統演劇の表現技法



中国伝統演劇の表現技法

前回は川劇「白蛇伝」の第一場から第二場までを鑑賞した。

今回は第三場から第五場までを鑑賞しながら、中国伝統演劇が「白蛇伝」というメルヘンの世界をどのような技法を用いて表現しているかを見ていきたい。



船槳



水袖

川劇のふるさと四川省



A topographic map of Mount Emei, showing its complex mountainous terrain. The map uses a color gradient from green at the base to yellow and orange at the peaks to represent elevation. A network of blue lines indicates the mountain's drainage system. A red dot marks the summit, with a line connecting it to a text box.

峨眉山（標高3099m）

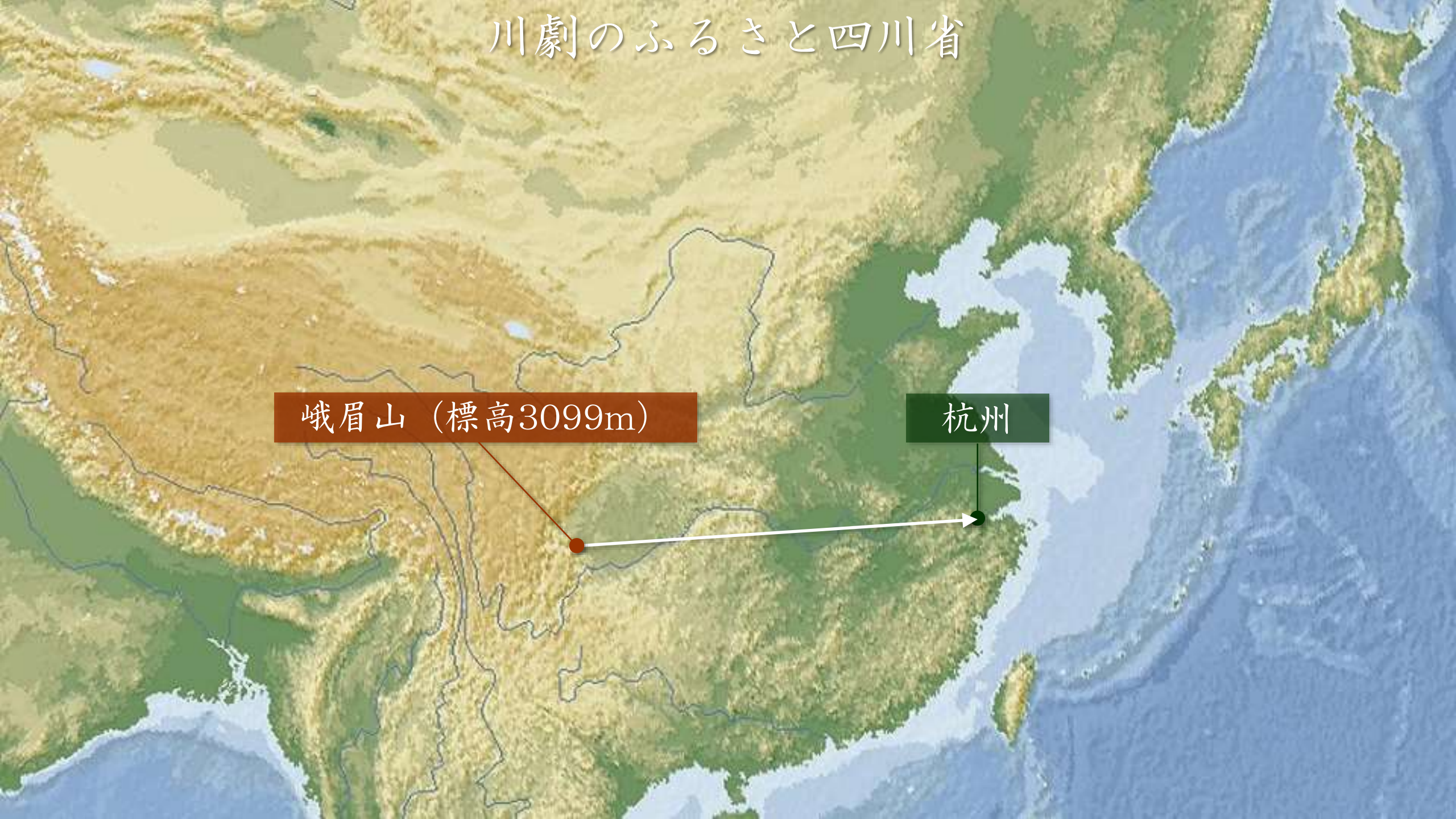


世界遺産に登録された中国三大霊山の一・峨眉山

川劇のふるさと四川省

峨眉山（標高3099m）

杭州





杭州西湖十景の一・雷峰夕照

川劇「白蛇伝」第三場 雨舟借傘

杭州・西湖のほとり。人間界に
追放された桂枝羅漢は、天界での記
憶を消され、許仙という若者に生ま
れ変わっている。

清明節の墓参りの帰り、許仙が船
に乗って湖を渡っていると、侍女を
つれた一人の美しい女性に同船を求
められる。





能の櫂と船形の作り物

能では、船上の情景は船頭が操る櫂と船形の作り物によって表現される。図は『船弁慶』。鎌倉方から追われる身となり、船で西国に逃れようとする源義経と弁慶の前に、平知盛の亡霊が現れる。(狩野柳雪「能之図」文化デジタルライブラリー)





能の櫓棹と船の作り物（『船弁慶』同志社大学伝統文化の現代的創造研究会より）

中国伝統演劇の技法(三) 船槳

中国の伝統演劇では、役者の身体表現を妨げる舞台装置は極力排除され、代わりに象徴的な小道具だけによって情景が表現される。

次に鑑賞する第三場では、能のよ
うな舟の作り物も使わず、丑(道化
役)が演じる船頭が、**船槳**(櫓櫂)と様
式化された所作だけによって、船上
の情景を表現する。



第三場

雨舟借傘うしゅうしゃくさん

(傘がとりもつ縁)



能の面（おもて）

能では、性別や年齢、社会階層の違いによって異なる面を使う。
左は『高砂』で老人がつける小尉（こじょう）。右は『班女』で若い女性がつける小面（こおもて）。

中国伝統演劇の技法(四) 臉譜

中国伝統演劇では、役者の歌唱の妨げにならぬように、能のような面をつける代わりに、顔に記号化された**臉譜**(くまどり)を施した。

小生(青年役)や小旦(若い女性役)は目の周囲を桃色に塗ることで若さを表し、中高年役は**髯口**(ひげ)とその色で年齢を、丑(道化役)は鼻の上を白く塗ることで滑稽さを表した。



川劇「白蛇伝」 第三場 雨舟借傘

女性の名は白素貞（白蛇）。侍女の小青（青蛇）は船頭や許仙にしきりに話しかけ、許仙と白蛇の仲を取り持とうとする。

しかし、船はやがて清波門に到着し、白蛇は許仙から雨傘を借りると、再会を約して去っていく。





川劇「白蛇伝」第三場 雨舟借傘(下) (9:50)

川劇「白蛇伝」 第四場 破符吊打

ようやく出会うことのできた二人。
しかし、天界からは白蛇を退治する
ため、蝦蟇の精が遣わされて来る。
蛤蟆の精は、王道陵という道士に
化け、許仙を訪ねる。





川劇「白蛇伝」第四場 破符吊打(上) (6:54)



川劇「白蛇伝」第四場 破符吊打

許仙と白蛇は藥屋を開き、仲むつまじく暮らしていた。

ところが、そんな二人の前に蛤蟆の精が現れる。

道士・王道陵に化けた蛤蟆の精は、許仙に妖怪退治のための札を渡す。



川劇「白蛇伝」第四場 破符吊打(上) (6:54)

川劇「白蛇伝」第四場 破符吊打

道士・王道陵（蛤蟆の精）からも
らった魔除けの札を開くと、突然靈
官・闕口星君王が姿を現し、驚いた
許仙は気を失ってしまう。

それが蛤蟆の精の仕業であること
を知った白蛇は、青蛇に命じて蛤蟆
の精を捕え、鞭打たせる。





川劇「白蛇伝」第四場 破符吊打(下)(8:44)

中国伝統演劇の技法(五) 水袖功

中国伝統演劇の衣裳の袖には、**水袖**と呼ばれ白絹がつけられている。役者は**水袖功**と呼ばれるさまざまな技法を使い、所作にリズムと優雅さを加えるとともに、登場人物の心情を表現する。

次に鑑賞する第五場では、雄黄酒を恐れながらも愛する人のもとを離れたくない白蛇の葛藤が、水袖の巧みな動きによって表現されている。





川劇の名女優・陳書舫の指導を受ける古小琴

川劇「白蛇伝」第五場 端陽驚変

端午の節句の日、許仙の前に再び道士・王道陵（蛤蟆の精）が現れる。

「お前の妻の正体は蛇だ」という道士の言葉に惑わされた許仙は、蛇にとっては猛毒である雄黄酒を白蛇に飲ませることにする。



第五場

端陽驚変

(端午の節句の騒動)

川劇「白蛇伝」第五場 端陽驚変

物陰から話を聞いていた青蛇は、
白蛇のもとに駆けつけ、蛤蟆の精が
許仙に雄黄酒を渡したことを伝える。
逃げるべきか留まるべきか、白蛇
は葛藤する。しかし、許仙の子供を
身ごもっていた白蛇は、危険を覚悟
で留まることを決意する。



まとめ

今回は川劇「白蛇伝」の第三場から第五場前半までを鑑賞しながら、中国伝統演劇の表現技法である**翎子功**、**船槳**、**臉譜**、**水袖功**について学んだ。

「**有声必歌**、**無動不舞**」（声あれば必ず歌い、舞わざる動きなし）を基本とする中国の伝統演劇では、役者の身体表現を妨げるような舞台装置は使わず、かわりに舟を象徴する**船槳**と役者の所作によって船上の情景が表現される。

役者の顔に施された**臉譜**は、その役柄がわかるよう、登場人物の年齢や性格を記号的に表徴している。

衣裳の袖につけられた**水袖**を自在に操る**水袖功**は、役者の動作にリズム感と優雅さを加え、登場人物の心情を巧みに表現している。